

ナマケモノのかんさつシート

どうぶつかがくかん
動物科学館のバードホールにはナマケモノが2頭いるよ。観察してみよう！

ナマケモノをさがそう！ いたところに、1頭目は○、2頭目は△でかこってね。



行動をかんさつ！ 見られたものに○をしよう

1頭目 2頭目

- () () ふらさがって移動していた
- () () 動かなかつた
- () () 2頭くつついでいた
- () () 水を飲んでいた
- () () エサを食べていた
- () () 木をのぼっていた

その他

ナマケモノさがしで、気づいたことや発見したこと

なまえ
名前

ぶらさがっている動物を探そう！

↓ナマケモノと同じように、ぶらさがっている動物に○をしよう？

- () フクロテナガザル
- () オランウータン
- () ゴリラ
- () デマレルーセット
オオコウモリ
- () ニホンリス
- () コツメカワウソ

がっこうめい
学校名

先生用 フタユビナマケモノのかんさつシートと解説

**ワークシートの
ねらい** ナマケモノの行動や体の特徴を観察することを通して、動物への興味・関心を引き出すと共に、生き残るために獲得してきたしきみや特徴を理解する

フタユビナマケモノ 貧歯目（有毛目）フタユビナマケモノ科

- ・南アメリカ北部の湿度の高い熱帯雨林に生息しており、樹上生活で暮らしています。
- 前肢の指が2本なので、この名前がつきました。後ろ肢の指は3本です。
- ・ナマケモノは他の哺乳類と違って、外気温に体温が左右される変温動物です。そのため、気温が一定する熱帯の一部の地域でしか生活できず、樹上でも体温調節のために日なたや日陰などに移動したりします。
- ・フタユビナマケモノは夜行性で、昼行性でおとなしい性質のミツユビナマケモノに比べ、攻撃的で、動きも活発です。日中は木の枝にぶら下がったり、しがみついたりして眠っています。
- ・動物公園では、コマツナ、白菜、キャベツ、キュウリ、ニンジン、サツマイモ、バナナ、リンゴなどを与えています。野生では、木の葉や木の芽、果実などを食べ、水分はほとんど果汁で補っています。



■ ゆっくりで動かない理由

ナマケモノは世界一動きが遅い哺乳類です。あまりにも動かないため、毛にコケが生えてしまうほどです。おかげで、全体的に緑が付いて見え、これが身を隠すのに役立っています。さらに、動きもゆっくりなので、気づかれずに、身を守っています。

また、他の動物に比べて筋肉が半分しかありません。早く動きたくても動けないのです。筋肉が少ないために、体重も軽く、細い枝さきにまで、簡単に登ることができます。



■ 共生と循環型の生活

ナマケモノは、地面において、穴を掘り、糞と尿をします。こうすることで、自分たちを養っている木に、葉を食べて得た栄養を返しているのです。特に熱帯雨林の土壤は、高温多湿のため、落ち葉や倒木などはすぐにバクテリアや微生物に分解されてしまい、豊かな土を作らないのです。だから、ナマケモノの排便習慣が木々にとっては重要な栄養となっており、エネルギーの循環と共にナマケモノと植物（樹木）の共生が成り立っています。



■ ぶらさがっている動物

ナマケモノのからだは、樹上生活に適したつくりになっています。長いかぎ爪を使って、枝につかり、ほとんどの時間を木の上で過ごします。また、体重が軽いため、細い木にも登れ、それだけ捕食者から襲われる心配も少なくなります。

ナマケモノのように、ぶらさがって樹上で生活している動物には、樹上生活ならではのからだの特徴があります。

- ・フクロテナガザル： 前肢は後ろ肢よりも長く、両腕の筋肉がよく発達しており、木の枝などをつかみやすいように親指は短く、他の4本は細長く、掌も細長くなっています。
- ・オランウータン： 前肢が特に長く、後ろ肢の2倍の長さになります。指とつま先が曲がっていて枝をつかむことができ、後ろ肢だけで枝に吊り下がったりもします。後ろ肢も、大腿骨と骨盤を結ぶ股関節の靭帯がないため、自由に動き、樹上を自在に動き回ることができます。
- ・デマレルーセットオオコウモリ： 肢には筋肉がなく、ほとんど皮と骨。肢の爪がかぎ状になっていて、寝ながら力をいれなくてもぶらさがれます。



* 飼育員のコラム 『エサのやり方に注目！』*

白い大きな建物が動物科学館で、その中にバードホールがあります。中は暖かく熱帯産の植物の葉が生い茂り、小さな池もあります。熱帯雨林の様子を再現しています。このバードホールの中で、哺乳類のフタユビナマケモノも放し飼いにされています。ナマケモノは、枝にぶらさがって移動するので、エサの与え方は、木に針金でフックを作り、そこに果物や野菜などをスライスし、食べやすいようにしてからフックにさし、ぶら下げて与えています。必要なとき以外は、木々に寄りかかって休んだり、しがみついて休んだり、寝そべったり、じっとしてエネルギーの消耗を少なくしています。見どころとして、1日1回の人工スコールのとき以降が一番よく動き回ります。もしかしたら、ハシゴを昇り降りする姿や、エサを食べている姿が見られるかも。ここでは、ナマケモノ探しをして楽しんでみるのもよいのでは……。